

平成 19 年度日本植物分類学会講演会

今年度のテーマは「Flora of Japan (日本植物誌)」です。1993 年から発行が始まった「Flora of Japan (講談社)」を執筆された先生方に、「原色日本植物図鑑 (保育社)」や「日本の野生植物 (平凡社)」と異なる点やそれらに関するご研究をご講演いただきます。

2007 年 12 月 15 日 (土) 10 時 20 分～17 時 (申込み不要)

兵庫県立人と自然の博物館 ホロンピアホール

兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 (電話: 079-559-2001)

※直接ホロンピアホール入口へは行かず、博物館の入口からお入りください (当日は案内看板を設置します)。

無料。ただし、博物館の観覧料が必要です (大人 200 円)。

※日本植物分類学会会員の方は観覧料不要です。

大阪駅から約 47 分 (JR 三田駅で神戸電鉄に乗り換え)、神戸電鉄「フラワータウン駅」下車徒歩すぐ。

< http://hitohaku.jp/top/visitor_info.html >

10:20～10:30 ご挨拶

10:30～11:05 岩槻邦男 (兵庫県立人と自然の博物館) 「Flora of Japan を地球規模で考える」

11:10～11:45 邑田仁 (東京大学大学院) 「日本産ツチトリモチ科とホンゴウソウ科の広域分布性」

11:50～12:25 副島顕子 (大阪府立大学) 「Aster & Menispermaceae —分類学者の迷いと後悔—」

(12:25～13:40 昼休憩)

13:40～14:15 門田裕一 (国立科学博物館) 「日本産キンポウゲ科に関する分類学的研究の現状」

14:20～14:55 田村 実 (大阪市立大学大学院)

「日本のユリ科の分類-特にアマドコロ属の分類の改訂を中心にして-

15:00～15:35 横田昌嗣 (琉球大学) 「ラン科」

15:40～16:15 勝山輝男 (神奈川県立生命の星・地球博物館) 「スゲ属植物最近の話題」

16:20～16:55 大場秀章 (東京大学総合研究博物館)

「地球規模での多様性解析からみた日本の植物相—アブラナ科, オトギリソウ科, アカバナ科を例に一」

Flora of Japan

岩槻邦男（兵庫県立人と自然の博物館）

講談社版の Flora of Japan は残る単子葉 2 冊を今年度、来年度に刊行し、完成するめどが立ってきた。これまでの経緯、問題点をあげ、地域植物誌に関する今日的課題を地球的視点で考察したい。

邑田仁（東京大学大学院）

寄生植物や腐生植物は構造の単純化と特殊化が進んでおり、個体数も少ないので、比較検討が難しい。Flora of Japan で示した新見解とその根拠を、主に写真を用いて説明する。

Aster & Menispermaceae —

—

副島顕子（大阪府立大学）

ツヅラフジ科は種数も少なくてもそれほど悩まなくてすみましたが、ごく一部しか担当しなかったシオン属はとてつもなく苦勞して、それなのに後からわかった間違いや、いまだに未解決の問題もあります。告白と訂正を。

門田裕一（国立科学博物館）

Flora of Japan Vol. IIa で記載したホクリククサボタンを始め、最近記載した北海道道北地方のソウヤレイジンソウやソウヤキンポウゲ、そして現在取り組んでいるやはり道北地方の低地溪流生キンバイソウ属について紹介します。

田村 実（大阪市立大学大学院）

Flora of Japan ではユリ科の中に 44 属を認めたが、そのうち従来の分類からの変更が特に大きかったアマドコロ属に焦点を絞り、なぜ分類を大きく変更するに至ったのか、その理由を中心にお話します。

横田昌嗣（琉球大学）

ラン科は 790 属 19400 種を含み (Dressler, 1993), 被子植物で最大の科であり、日本には 88 属 270 種以上を産する。サハリンでの野外調査の際に不慮の事故で亡くなられた井上健博士 (当時信州大学) とともに筆者はラン科を担当している。日本産のラン科の概要について、特に琉球列島産の種を中心にして紹介したい。

勝山輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）

スゲ属植物では最近になってユキグニハリスゲなどいくつかの新種が記載され、日本新産種の発見も相次いだ。アオスゲ、ホンモンジスゲ、ミヤマカンスゲなど難解なグループの整理も進んだ。これら最新情報を紹介する。

大場秀章（東京大学総合研究博物館）

Flora of Japan では、アブラナ科、オトギリソウ科、アカバナ科等は、地球規模での多様性解析を進める国外研究者が分担した。表記 3 科では、分類体系や種の定義などで従来のものかなりの差異があった。これを検討しその背景等を考えてみたい。

問合せ：日本植物分類学会講演会担当委員
布施 静香（兵庫県立人と自然の博物館）
TEL: 079-559-2001